

社会党のスキャンダルとFIDESZの攻防

盛田 常夫

ジュルチャーニの二枚腰に手詰まり状態の野党FIDESZに事態打開の好機が訪れた。9月初め、バーチ・キシクン県の社会党委員長ツシュラーグ・ヤーノシュが、政府補助金の不正受給で逮捕されたのだ。FIDESZにとっては願ってもない、新たな社会党攻撃のチャンスが巡ってきた。というのも、ツシュラーグは社会党の青年組織を取り仕切ってきたやり手で、17歳で県の青年組織委員長、20歳で全国青年組織副委員長を務め、25歳で国会議員になった人物だからだ。2004年のテロ博物館前の失言で議員辞職を余儀なくされ、出身県に戻り社会党県組織の要職を務めてきた。彼の政治歴はジュルチャーニや社会党青年組織出身の政治家のそれと重なるところがあり、社会党幹部がツシュラーグのスキャンダルに無関係だとは考えられないのだ。

ツシュラーグの逮捕理由は、青年・スポーツ省の補助金支給に関連した詐欺の容疑だが、ジュルチャーニが青年・スポーツ大臣、スィルヴァーシがその事務次官の在任時代と重なっている。ツシュラーグ事件の解明によっては、首相・閣僚を巻き込む大スキャンダルに発展する可能性もある。ツシュラーグは逮捕される数日前に、国会内で社会党幹部に相談に行っている所をメディアに撮られている。

ケチケメートの検察はジュルチャーニを初めとする社会党の幹部政治家から事情聴取を行った。社会党はツシュラーグを除名したが、それで済む話ではない。FIDESZにとって、この社会党スキャンダルは神風になるはずだった。ところが、意外にも、ここから事態が複雑な展開を見せ、予期せぬ方向に向かうことになった。

社会党とスキャンダル

前月号で記したように、ハンガリーでは官僚組織が弱く、政治家が省庁予算に介入できる余地は大きい。各種の名目を作って省庁予算から

党や青年組織へ資金を横流ししたり、政治家の身内企業へ補助金を支給したりして、事実上、公金が横領されている。ツシュラーグ事件はその典型的なケースで、名目上は、青年・スポーツ省の補助金が社会党青年組織主催の行事へ支出されたのだが、実際には青年組織の維持費に使用されたか、ツシュラーグの個人的な事業に使用されたようだ。ツシュラーグの捜査はまだ終わっておらず、数千万Ftの補助金不正受給に留まらず、今後、さらに奥深い不正が暴露される可能性がある。

この事件では、ツシュラーグに裏切られたビジネスパートナーが隠し撮ったビデオが存在し、TVでも放映された。その中でツシュラーグたちがEU補助金の分け前や担当省庁へのキックバックのことを話し合っている。FIDESZのオルバン党首はこれを受け、「社会党はEU補助金のほとんどを盗んでいる」とやったものだから、話が拡散してしまった。ツシュラーグに渡ったのは政府補助金で、EU補助金は関係ないと見られているが、今後の捜査結果を期待したい。

ヴェレシュ財務大臣の過去

秋に入って、FIDESZは政治的な膠着状態を打開すべく、社会党政治家の個人的スキャンダル暴露に突破口を求めた。ツシュラーグは予期せぬ事件であったが、FIDESZが標的にしたのは、ヴェレシュ財務大臣である。

ジュルチャーニもヴェレシュも社会党の政治家でありながら、1990年代に数十億の財を築いたことで知られている。体制転換のどさくさに紛れて、旧共産党や青年組織の資産が横領されたり、旧共産党の人脈を利用した旧国営企業の安価な払い受けや不良債権処理の借金棒引きなどで、国家資産や資金が大量に詐欺されたりしたことは間違いない。誰にどう渡ったのか、今となっては追跡のしようもない。

ヴェレシュ大臣が標的になったのは、1990年代初めに金属屑収集の事業を行っていた時のものだ。1991年にカーバイ・カーロイと共同でBogát Ferr Kftを設立したが、この会社が1994年までの間に、架空の領収書を作成して、5500万FtのAFA (VAT) の不正還付を受けた。これがメディアで暴露された裁判所の判決記録である。

ヴェレシュは1995年にこの会社の持ち分を売却するが、カーバイは今日までこの会社を経営しながら、ヴェレシュの政治的盟友として政治活動も続けてきた。実際、カーバイはニールボガティの社会党町長候補だった。このカーバイはヴェレシュが経営を外れた後の脱税容疑で、今年春に3年半の実刑判決を受けながら、収監を逃れて、ブダペストのヒューヴュシュジョルジ通りにある精神病院に「入院」していることが分かった。故郷の町では車を運転しているところを見られているが、騒ぎが大きくなり、警察が身柄を拘束するはめになった。カーバイの会社は、ユハース・フェレンツ大臣時代に、国防省から2億9200万Ftの仕事ももらっている。

権力は腐敗する。政権に長く居座る社会党は満身スキャンダルの状態だ。

ジュルチャーニの反撃

これだけスキャンダルが暴露されれば、野党FIDESZが圧倒的な政治的優位を示すことができるはずだが、またしても、ジュルチャーニの巧妙な反攻に嵌ってしまった。

ツシュラーグ逮捕で動揺が広がった社会党を制するべく、ジュルチャーニは幹部会の上承を得ずに、突然に「政治的腐敗を排除する7つの提案」を記者会見で発表した。その7点は以下の通りである。

1. 政党と選挙の資金補助について、新たな法律を作り、公金の不透明な利用を止める。
2. 政党の青年組織を自律的な単位として承認し、不明透明な資金提供を止める。
3. 政治活動に参加する市民組織は、公的補助を受けないようにする。

4. 公的補助金審査に加わった者、政府関係者・職員、地方行政組織・公的企業の管理者などの関係者は、受給資格を持たない。
5. 中央・地方を問わず、高級行政職にある者は資産を公開しなければならない。
6. 次回総選挙より、地方首長・会社経営者は国会議員を兼ねることを禁止し、国会議員職に専念しなければならない。
7. 国会議員の所得を透明化し、監査可能にする。

FIDESZは「盗人猛々しい」、MDFは「社会党がこれまでの公金流用を認めたに等しい」と批判したが、ジュルチャーニは怯むことなく、「もし政党間の合意が得られなければ、国民投票にかける」と言いだしたものだから、FIDESZが慌てた。ただでさえ、国民投票ダンピング合戦（ダーヴィッドMDF党首の言）で、FIDESZの戦略が霞みかけている。それにこのジュルチャーニ提案が加われば、国民投票でジュルチャーニ政府を打倒する政治目標が限りなく埋没してしまう。

他方、社会党の議員で、地方自治体の首長を兼ねている政治家は、公然とジュルチャーニを批判する事態になった。カルシャイ・ヨーゼフなどは議員団会議で興奮しすぎて気分が悪くなり病院へ運ばれた。しかし、このジュルチャーニ提案がなければ、FIDESZの攻勢に晒されていたはずだ。社会党幹部会が事後承認したのは言うまでもない。

そもそも首長と兼任できるほどの国会なら、兼職を禁じて議員定数を半分にするれば良い。ハンガリーでは何カ所も仕事を掛け持ちして、すべての所から専任給与を得ている「お偉いさん」がたくさんいる。そういう非常識を今まで放置してきたのがハンガリーの政治と社会。

後手に回ったFIDESZは漸く、受診料・診察費・授業料廃止の国民投票実現の署名活動に入った。しかし、国民投票するほどのテーマなのか。政策の手詰まり感が強い。だから、国民投票路線もすでに提案時の迫力を失っている。

(関連記事は、<http://morita.tateyama.hu>を参照されたい)